



968号
2023年11月21日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行

←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！



メールはこちら→



中間決算は次の通り

決算の概要

11月13日、2024年3月期第2四半期(中間)の決算が発表された。日本郵便は赤字、他の各社は黒字を確保した。

郵便・物流事業

取扱数量が、総計で4.7%減少しており、ゆうメールが12.3%減となった。ゆうパックが1.7%増

2024年3月期 第2四半期(中間期)の経営成績 (億円)

| | 日本郵政グループ | 日本郵便 | ゆうちょ銀行 | かんぽ生命 |
|-------|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 経常収益 | 56,181 | 15,826 | 12,995 | 31,139 |
| 前中間期比 | 1,677 3.1% | △1,244 △7.3% | 3,707 39.9% | △884 △2.8% |
| 経常利益 | 3,352 | △229 | 2,538 | 993 |
| 前中間期比 | 407 13.8% | △577 (-) | 336 15.2% | 647 187.5% |
| 中間純損益 | 1,202 | △210 | 1,821 | 504 |
| 前中間期比 | △857(※) △41.6 | △474 (-) | 235 14.8% | 21 4.4% |

(※)日本郵政が保有しているゆうちょ銀行株式の売却(2023年3月)に伴う持ち分比率の低下の影響が含まれている

2024年3月期 通期業績予想

| | | | | |
|-------|-------|-----|-------|-------|
| 経常利益 | 6,200 | 150 | 4,700 | 1,400 |
| 中間進捗率 | 54.1% | (-) | 54.0% | 70.9% |
| 当期純利益 | 2,400 | 70 | 3,350 | 720 |
| 中間進捗率 | 50.1% | (-) | 54.3% | 70.1% |

加し、ゆうパケットは5.1%増加した。営業収益が前中間期比34.4億円(3.5%)減収。

営業費用は100億円(1%)増加し、営業損益は50.7億円の赤字を計上(前中間期比から赤字幅が44.4億円拡大)した。今回の決算では、ゆうメールの減少幅が大きかったが、今後、クロネコDM便の引受拡大が順次開始される。

郵便局窓口事業

不動産事業の賃料収入は増収となったが、保険・銀行手数料等が減り、前中間期比7.8億円(1.5%)減収となった。

営業費用は、前期比11億円(0.2%)の減少。営業利益は前中間期比6.7億円(18.1%)の減益で30.4億円。

国際物流事業

営業損益が前期比4.6億円減の3.4億円。ロジスティクス事業は

健闘しているが、他事業は軒並み厳しい状況で、減収・減益が続いている。

日本郵便

営業損益は前期比5.5億円減の△20.1億円と赤字。

中間純利益は前中間期比47.4億円減の△21.0億円と赤字。営業収益が前中間期比1,21.6億円減少しており、営業収益悪化が赤字の主因。

ゆうちょ銀行

連結業務純益は、前期比2,001億円減の△898億円。中間純利益は前中間期比23.5億円増の1,821億円。

臨時損益として、株式や不動産ファンド等のリスク調整による売却益が、前期比2,337億円増加。

かんぽ生命

基礎利益は前期比2.7億円増の1,317億円。中間純利益は21億増の50.4億円。主に新型コロナウイルス感染症の保険金支払いの減少により、営業利益が前中間期比6.47億円増の9.93億円と経常利益の改善が見られる。

減損の帳消し

日本郵政は、保有する楽天G株の850億円の特別損失を戻し入れ、減損の帳消しを行った。楽天グループ株が9月末時点で、半値の573円を超えていたからだ。当時千円以上で購入した楽天グループ株は、11月20日の終値で562円となっており、今後も減損処理となる可能性はある。

利益を株主・社員還元には消極的で、出資には積極的な経営者。積極的な投資を行った結果、莫大な損害を与えている危険性が生じて、会社から高額報酬を得る。株主はこの様な会社をどの様に判断するか、注視していきたい。

今後の予定

- 11月24日(金) 18:00~
呉支部忘年会
鳥長(参加費2千円)
 - 12月12日(火) 17:00~
第3回呉支部執行委員会
支部事務所
- 次号は 12月 5日 予定